

キャンドルのつどい

【目的】

灯火を囲み、神秘的な雰囲気の中で、互いの親睦を深める。

【実りある活動にするために】

- ・事前準備・リハーサルを十分に行ってください。
- ・マニュアルにこだわり過ぎず、独自の活動を展開してください。
- ・1部『静』、2部『動』、3部『静』のメリハリを意識してください。

【役割分担】

- | | | |
|--------------|-------|---------------------------|
| ①火の長(団体責任者) | …1人 | 激励のことば |
| ②女 神(聖火係) | …2人 | 親火を火の長に導く又は女神のことば(1部と3部) |
| ③点火係 | …4人 | キャンドル台に点火する係 |
| ④献詩者(点火係) | …3～6人 | 誓いのことば、研修のねらいや目標から考える。 |
| ⑤司会者(進行・音楽係) | …1～3人 | 進行・プログラムの編成、音楽・歌などを流す。 |
| ⑥納火者(納火係) | …4～5人 | 火を消す。点火係が行ってもよい。 |
| ⑦用具係(準備・照明係) | …4～5人 | キャンドル台の準備や片付け。納火係が行ってもよい。 |
- * 必要に応じて係を追加してください。

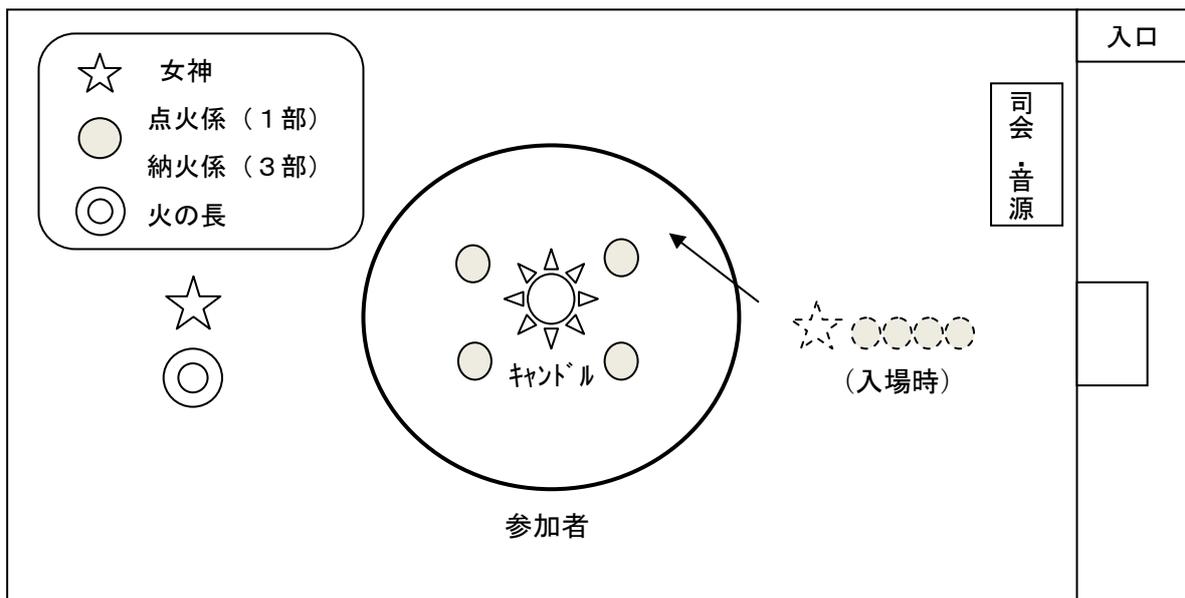
【準備物】

BGMとして使用するCD・カセットテープ(貸し出しもできます)、2部で使う小道具等

【青少年の家で貸し出しできるもの】

キャンドル台、CDラジカセプレイヤー、CD、カセットテープ、放送機器、女神用衣装、ライター、ペンライト

【流れの例】(体育館)



第1部 点火(迎え火)のつどい(10分～15分)・・・厳粛に行う

(準備係は、会場中央にキャンドル台を置く。)

(1)入 場

参加者は、静かに1列(多人数の場合は2～3列)で入場し、キャンドル台を中心に1重円(多人数の場合は2～3重円)に整列し、中央を向く。(放送係は、BGMで静かな曲を流す。)

(2)はじめの言葉(司会者)《ペンライトなどで手元を照らし、シナリオを読む。》

(例)「風光明媚な海岸線からなる芦北。歴史と伝統を受け継ぐ芦北。そんな芦北にも夜のとぼりがおりよと
しています。このあしきた青少年の家で活動する中での自然を今一度思い浮かべてみましょう。
目を閉じてください。・・・私達、人類は火を起すことを知り、火を使いこなすことで文明を発達させて
きました。この聖なる火を囲み、自己を見つめ、親睦と友情の輪を広げ、いつまでも心に残る楽しい
思い出になることを祈って、「キャンドルのつどい」を始めます。それでは、みなさんとともに
『遠き山に日は落ちて』を歌いながら、『不知火の火(しらぬいのひ)』を迎えましょう。」

(照明係はダウンライトを暗くしていく。)

*参加者は、『遠き山に日は落ちて』をみんなで歌いながら、女神を迎える。

(3)女神入場(点火係・献詩者入場)

女神は、火をつけたキャンドル(トーチ)を持ち、静かに入場する。点火係・献詩係はトーチを持ち、
女神の後ろをついて入場し、キャンドル台の周りに並ぶ。女神は円の内側を1周し、キャンドル台の
正面に立つ。火の長は初めからキャンドル台の正面に立っておく。

司会者「女神より言葉をいただきます。」

女 神「みなさん・・・(別紙「はじめの女神の言葉」参照。)」

(4)火の長(ひのおさ)の言葉

司会者「ここで、火の長よりことばをいただきます。」

火の長「みなさん・・・(別紙「火の長の言葉」参照。)」

(5)分 火

司会者「女神より代表(点火係)に、『不知火の火』が分火されます。」

女神は1歩前に出る。点火係は女神の前に並び、火を分けてもらう。

※女神のトーチは傾けない。

司会者が『〇〇の火(分火の言葉)』に分火されます。」と説明を入れながら進めてもよい。

点火係は分火されたら、キャンドルを上にかざし「〇〇の火(分火の言葉)」といいながらキャンドル台の方に
向き直す。・・・点火係の数だけ、これを繰り返す。BGMを流してもよい。

(分火の言葉例) 「出会いの火」 「平和の火」 「親睦の火」
「友情の火」 「希望の火」 「奉仕の火」など

(6)点 火

司会者「女神と点火係によって、キャンドルに灯がともされます。」

(点火係は、元の場所にもどる。女神はキャンドル台まで進み、最も高い所のキャンドルに点火する。
続いて点火係が、キャンドルに点火していく。点火するときは、火のついていないキャンドルを手に取り、
トーチは傾けない。点火は、高い位置・内側のキャンドルからを原則にし、火傷をしないように注意する。
つけ終わったら自分のトーチを台にさし、元の位置に戻る。)

(7) 誓いの言葉

司会者「この聖なる火を見つめていますと、不思議と心が安らいできます。『暗闇を照らすあたたかいキャンドルの炎』。この灯を見つめながら、今までの自分の生活を振り返り、これからの自分の未来を想像してみましょう。・・(しばらく時間をおく)・・ ここで、誓いの言葉をおねがいます。」

献詩者は、一步前に進み出て、誓いの言葉を述べる。(内容は、団体で考えてください。)

(8) 女神・点火係(献詩者)退場

司会者「女神、点火(献詩)係が退場します。」(入場と同じ隊形で、静かに退場する。)

(9) 結びの言葉

司会者「ただいまの誓いの言葉を、今一度、胸に刻みましょう。この時が、有意義で思い出深いものになることと、これからの皆さんの未来がすばらしいものになることを祈りたいと思います。」

【司会者「では、このキャンドルの炎を見つめながら、『団体オリジナル曲』(『若者たち』等)を歌いましょう。

(照明係は、会場を少しずつ明るくする。)】←省略し、一斉に明るくしてもよい。

司会者「これもちまして、第1部を終わります。司会は、()学校の()でした。」

(準備(納火)係は、キャンドルの火を消してキャンドル台を隅に移動する。)

第2部 親睦(交歓)のつどい(45分から60分)・・・楽しく行う

(1) はじめの言葉

司会者「私は、第2部の司会をします()学校の()です。楽しい交流のつどいにしたいと思います。ご協力よろしくお願いします」

(2) 親睦、交歓(シンキングゲームや交流ゲーム、ダンス、出し物など)

司会者「それでは、最初に、〇〇(学校、組、グループ)お願いします」(団体でさまざまな工夫をしてください)

※ ここでの、ゲームの進行は、各学校・団体の(つどい担当)先生又は指導者で展開してください。

展開の仕方はいろいろ考えられます。ゲームの間に出し物をはさんでいく方法、ゲームを先にして、その後に出し物をする方法などが一般的です。

(3) 結びの言葉

司会者「楽しい親睦のつどいも終わりにになりました。では、第3部の司会者にバトンを渡したいと思います。皆様のご協力ありがとうございました。」

第3部 納火(送り火)のつどい(10分～15分)・静かに別れを惜しむように行う

(事前にキャンドル台を中央に移動し、すべてのキャンドルに火をつける。照明係は場内を暗くする。)

(1)はじめの言葉

司会者「今夜のつどいも、そろそろ閉会の時が近づいてきました。名残りはつきませんが第3部『納火のつどい』を始めます。司会は、()学校の()です」

(2)女神、納火係入場

司会者「それでは、『ふるさと』を歌い、女神を迎えましょう。」

(女神に続いて納火係も入場する。女神は火の長の隣に並ぶ。納火係はキャンドル台の周りに立つ。)

(3)女神の言葉

司会者「女神より言葉をいただきます。」

女神「楽しかった・・・(終わりの女神の言葉参照)。」

(4)納火

司会者「それでは、納火をお願いします。」(納火係は火を消す。外側、下からを原則とする。)

(※女神「ここで、一遍の詩を与えます。一詩朗読」)(女神が2人の時に入れることもできる。)

(5)女神、納火係退場

司会者「女神、納火係が退場します。」(女神、納火係は、ゆっくり退場し、入口で向かい合う。)

(6)退場

司会者「いよいよお別れの時がきました。最後に『今日の日はさようなら』を歌いながら、退場しましょう。」

(放送係は、テープ等を流す。2番に入るところに退場を始める)

(退場を始めて)司会者「どうぞ、皆さん、いつまでも元気で活躍してください。これからの皆さんの生活が幸せであるように祈りながらキャンドルのつどいを終わります。」

(参加者は、担当の指示を受け、解散する)

- 第3部終了後、係になった人(1、3部の女神、火の長、点火係、納火係、献詩者、準備係、司会者、照明係は、最後にキャンドル台の周りに集まり、火の長より慰労の言葉をいただき、中央の火を消す。その後、担当の指示に従い後片付けを行う。)

【言葉の例】

はじめの女神の言葉(小中学生)

皆さん、ただ今「不知火の火」を持ってまいりました。火は大昔、ギリシャの神様が太陽の火を地球に持ち帰り私たち人間に伝えたと言われていました。人間は火をこわがり、そして大切にしてきました。この不思議な火を静かに見つめてください。やさしくてあたたかいたくさんの友達をつくる火、これからの私達をみつめる夢いっぱい火。いついつまでも消してはいけないと思います。今夜は、みなさんと一緒にこの火を囲んで、静かに自分のことを考え、自分の夢に向かって進んでいくことを心に決めましょう。楽しい思い出となるようこの火を高くかかげます。(キャンドルを高くかかげる)

はじめの女神の言葉(高校生以上)

皆さん、ただ今「不知火の火」を持ってまいりました。「火」は古代ギリシャの神が太陽の火を地球に持ち帰り人類に分け与えたと、言われます。火は私たちの祖先が最も恐れ、そして最も大切にしてきたものです。この神秘的な火を静かに見つめてください。あたたかい友情の火、未来を見つめる希望の火、平和と愛のシンボルとして永遠に消してはならないと思います。今宵、皆さんとともにこの火を囲み、静かに自分を見つめ、未来に向けて大きく前進する決意をしましょう。美しい思い出となりますように祈ってこの火をかかげます。(キャンドルを高くかかげる)

おわりの女神の言葉(小中学生)

楽しかったキャンドルのつどいも終わろうとしています。たくさんの友達と仲良しになることができ、とても感謝しています。私達は、今日、ここで育てた心をこれから先も友達のためやたくさんの人々のために役立てていきたいと思っています。これから毎日の生活でも、悲しいこと、苦しいこと、嫌なこと、つらいこと、困ったことなどたくさんあるでしょう。そんなときは、ここ「あしきた青少年の家」でともに歌い、ともに過ごしたことを思い、元気いっぱい胸をはってがんばることを誓いながら結びの言葉とします。皆さん、いつまでも仲良しの友達でいましょう。

おわりの女神の言葉(高校生以上)

楽しかったキャンドルのつどいもまもなく終わろうとしています。多くの友達と心を開き、親しく交わる機会を与えてくださったことを感謝いたします。私達は今宵ともにした心の灯火を友情の火としてお互いを温め合い、照らし合い世の中を明るく楽しくすることを祈ります。これから私達は、悲しいこと、苦しいこと、嫌なこと、辛いこと等にぶつかるでしょう。そんな時には、あしきた青少年の家でともに歌い、ともに語り、ともに学んだ多くの友達を思い、たくましく歩み続けることを誓い、結びの言葉といたします。

火の長のことば

静かに燃えているこの火によって、今日の文明が聞かれてきたことは、みなさん十分御承知の通りです。この火が持っているすばらしいエネルギーはわたしたちの一日一日の暮らしに、なくてはならないものであります。このキャンドルは自分の身を溶かしながら、周囲を明るく照らし出しています。わたしたちもこのキャンドルを見習い、たとえ一人の力は小さくてもみなの手をつなぎ合わせ、まわりの人たちのために、家族のために、そして、自分自身のために、今なすべきことを、よく見極め、全力を尽くしていこうではありませんか。みなさんのこれからのご健闘を心からお祈りいたします。